

参加者からのご意見紹介(Q&A)

項目	ご質問・ご意見	回答
基調講演 広島大学環境安全センター長 西嶋 渉 教授 (閉鎖性水域・瀬戸内海における水環境の管理)	栄養塩放流と関連づけたアマモ増殖活動は既に始まっていますか？	私の知る限りでは未だありません。
	生態系は pelagic だけでなく、底生生態系の健全性が重要です。藻場は魚類の生息場としてだけでなく、餌生物の生息場であることの重要性に注目して戴きたいです。	ご指摘の通り、藻場の多面的に生態系サービスに着目した研究や保全が重要だと考えています。
	下水道放流の上限値は海域の物質循環を考慮して決定されたものではないと思うので、栄養塩が海域に出てからどのように循環するのかという点について環境省の水質部会で検討戴きたい。	環境省の部会でどのような議論を行うかに関しては私の責任の範疇を超えていますので直接のご回答はできませんが、栄養塩類管理は物質循環を含む各海域の生態系の理解に基づくことが重要だと考えています。
各湾からの取組紹介 国土交通省近畿地方整備局 (大阪湾)	ブルーカーボンは増殖させた藻場などが維持できなければ一旦販売したクレジットの価値が消失すると思われそうですが、適切に扱われていますか？	クレジットの申請は 1 年単位で行われ、申請時にアマモの生息が確認できていれば、その炭素は土壌に固定された状態を保っていると考えるので、一旦販売したクレジットの価値が消失することはありません。 ただし、申請後、仮に藻場が消失した場合には、それ以降の炭素固定は見込めないことからクレジット申請は難しくなると考えられます。
話題提供 周南市役所 産業振興部水産課 中野 孝明 氏 (大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港)	ブルーカーボンのクレジットは国際的に公認されてるのでしょうか？	※クレジット制度に係るご質問につき、事務局からご回答します。 国際的な公認には色々な定義があるため、一概には言えませんが、ブルーカーボンのクレジットは、現時点では NDC(パリ協定で定められた自国で定めた温暖化対策の計画)には組み込まれていない状態です。ブルーカーボンクレジットの NDC への組み込みは、今後検討が進められる予定と聞いています。
	ブルーカーボンの認証機関は、国際的に承認された機関なのでしょうか？	※クレジット制度に係るご質問につき、事務局からご回答します。 上記のとおり、現時点ではブルーカーボンのクレジットは国内のボランティア市場を対象とした制度であり、国際的な認知は、これからだと思います。

項目	ご質問・ご意見	回答
<p>話題提供</p> <p>JFE スチール株式会社／スチール研究所 宮田 康人 氏 (鉄鋼スラグ製品による海域環境改善の取り組み)</p>	<p>岩国市神代沖の件について、2013 年のデータが提示されましたが、最近もモニタリングは継続されているのか、宇部高専の先生の研究とのことで、設置後約 10 年経過した最近の状況について概要が分かれば教えてください。</p>	<p>はい、最近もモニタリングは継続しております。最近では魚類の食害と思われる影響を受け、海藻の繁茂量は増減を繰り返しています。</p> <p>一方で、藻場造成により沿岸部の波当たりが穏やかになったことで、砂泥性藻場(アマモ場)が拡大するなどの喜ばしいことも起きております。</p>